

『その後どうですか?』

日本学校教育相談学会長崎支部理事

山田喜典

45歳で小学校3年生の担任をしている時の話です。

ある日、市内にある床屋さんのご主人から、学校に電話をいただきました。該当する児童が私の学級の男子で、次のような話でした。

昨日、店にいたずら電話があった。
「死ね 死ね 死ね…」と100回ぐらい言ってガチャン!!。ディスプレイで折り返しかけて犯人が分かった。学校でも指導をしてほしい。

かなりのお怒りの電話だったことは言うまでもありません。

ちなみに、この床屋さんの電話番号が、子どもたちからすると、いたずら電話をかけたくなるような番号なので、よその学校の児童からも複数回電話があるそうです。

学校としても担任としてもお詫びを入れ、該当児童にもしっかりと指導をしました。

それから約1か月後。私はこの床屋さんに電話をかけました。メモすることなくしっかりと覚えているぐらいの番号です。

ところで、どうしてかけたと思いますか?

電話口には聞き覚えのあるその男性の声が聞こえてきました。あの時の剣幕も蘇り、少し緊張したのを覚えています。

「あのー1か月前に、お叱りの電話をいただいた〇〇小学校の山田ですが…」

「……。」

「その節は大変ご迷惑をおかけしました。あれからひと月過ぎましたが、その後はいかがですか? 何かあってませんか?」

すると、声のトーンが急に柔らかくなり、

「いいえ その後は同じ子どもからはかかって来てません…。私は苦情の電話は何回もかけてますが、こんな電話をもらったのは初めてです」と嬉しそうに話してくれます。

それからです。私が、「その後どうですか?」を自分の実践として心がけたのは。その後の経過、様子はどうだろうと気を揉む心配な事ほど、相手との関係づくりの良い機会です。

「その後どうですか?」の言葉は、時間が経過すればするほど、逆にその価値を高める貴重で大切な言葉です。

皆さんには、1か月前の出来事で、「その後どうですか?」と声をかけた方が良い出来事はありませんか?